

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が微増している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・特に目立って来客数が増えたということでもないが、下見のような感じでも購買意欲が見受けられ、実績も上がっている。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	お客様の様子	・例年9月はあまり良くないのだが、今年は象牙の実印が出るなど高額商品が動くようになり、大口の取引も入り忙しくなった。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・4月以降、来客数が前年比マイナスが続いていたが、今月は久しぶりにプラスとなった。毎年恒例の物産催事においても、前年比110%の売上となった。個別の商品では、婦人ブーツの売行きが好調である。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・前年は残暑や台風の影響で悪かった事もあるが、今月は各店や競合店の速報値でも前年比105%以上の見込みがでている。婦人靴は115%以上伸び、西日本全体で好調であり、特にブーツは前年より2週間早く売上が上昇し始め、2けたの伸びとなっている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月については家庭用品や食品、服飾雑貨関係が好調な伸びを示しておりフリーの客の動きが活発化している。固定客主体の当店には今までなかった傾向で、一般客の購買意欲が向上してきた。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・9月のリモデル効果、及び物産展催事の成功により、来客数が大幅に増加している。また、売上も前年比を大きくクリアしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ3か月連続して上昇傾向で、今月は販売件数が前年比104.5%、客単価前年比102%、来客数前年比103%となり、良くなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は横ばいながら、客単価が前年比で上昇している。なかでも、一品単価の上昇が売上を押し上げている。少しグレードの高い商品の動きが良くなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価については、3か月前は前年比割れの状態が続いていたが、8月9月は102%と改善している。若干ではあるが、景気回復になっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・最近になって、まとめ買いの客が多く見受けられる。特に高額商品のまとめ買いも増加し、景気回復を実感している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は先々月よりは若干の増加、先月と同じといった状況である。鳥取地区平均は100%を割っているということで、当店は100%をキープできており、良い方である。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・気温が下がり、例年に比べ秋物の動きが良い。
		その他小売（営業担当）	販売量の動き	・客単価、販売量共に微増傾向である。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・昨年は、台風の影響をもちに受けたが、今年はそれもなく順調な来客数となっている。単価的にも良い傾向にある。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・団体旅行シーズンに入っているため、宿泊単価は低下しているが、付帯の売上が増加し、客の消費単価が上昇している。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・9月はスポーツやその他イベントが多く、宿泊客やレストランの客が増加している。	
	通信会社（社員）	販売量の動き	・販売量に加え、来客数も3か月前に比べてやや良くなっている。	
	ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・入場者が昨年上期に比べ105%に達しそうである。県外客の動きが良い。	
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・住宅も含め古い建築をリフォーム、リニューアルして使いたいという人が徐々に増えている。	

	住宅販売会社 (経 理 担 当)	販売量の動き	・モデルルームへの来場者は若干増加しており、契約戸数は24日時点で6月実績値とほぼ同水準にまで達している。
変わらない	商店街(代表者)	来客数の動き	・松江の中心部は以前から地盤沈下が激しいと言われていたが、最近になって特に来客数が減少している。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・昨年の9月は台風の影響もあったが、今年はそれもなく順調に推移し、久しぶりに前年比で売上増となった。今月に関しては客の購買意欲が若干増した。ただし、これが何か月も続くような強い傾向ではない。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・最近、季節の変わり目には買い控えが顕著に見受けられる。
	一般小売店 [靴](経営者)	お客様の様子	・相変わらず客の品選びはシビアである。商品の価格・他店との比較等とても厳しい。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・朝夕涼しく例年に比べ残暑の厳しさも少ないにもかかわらず、高単価商材の動きが悪く、逆にボリュームゾーンのミセス商材の動きが良い。相変わらず一点買い中心である。
	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・アクセサリ -、ゴルフウェア、宝飾サロンを改装オープンした。新しいブランドへの反応は良いものの、基幹のファッション部門が上旬の残暑も加わり低迷が顕著である。特に婦人服のミセスゾーンが厳しく、購買も単品となり単価も低下した。
	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・直近の3か月については、全体に売上が低調で前年比でほぼ平行線である。9月については、少し上向きの傾向ではあるが、微増程度であり感覚的には平行線である。
	百貨店(電算担当)	販売量の動き	・前年よりマイナスで決して良いとは判断できないが、まずまずの売上と、まあまあの来客数といった所である。食品売上が、ほぼ前年並でほっとしている。この要因としては、催事と天気によるものが大きい。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・来客数は前年比85%だが、買上単価が前年比200%と好調である。
	百貨店(売場担当)	来客数の動き	・9月の売上は前年比をクリアしているが、ブーツの売上があまり良くない。
	百貨店(購買担当)	お客様の様子	・気温も涼しくなり台風以外は安定した日が続いているので、秋物も順調に動き出している。特にヤングゾーンではニットが注目されており、昨年以上に良い動きを示している。しかし、ミセスゾーンは相変わらず低迷している。ミセス客の買い方が変化し、ミセスゾーンより比較的価格の安いヤングゾーンでトレンドを意識しながらファッションを楽しんでいるという傾向がみられる。やはり価格に対してシビアな顧客層というのは、ヤングよりもミセスであるようだ。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数は前年を上回っているが、客の買物動向がシビアになったのか、買上点数が昨年を下回ったままで、客単価が前年比97~98%で推移している。
	スーパー(店長)	単価の動き	・来客数、買上点数共に変化なしといった状況である。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・農産物の単価が昨年に比べて上昇しているため、点数が上がるにつれて売上も好調に推移している。ただし、競合の激化により来客数が減少しているため、トータルとしては3か月前と変わらない状態である。
スーパー(総務担当)	販売量の動き	・現在は鮮魚・青果とも、金額及び数量で前年比で3ポイント程度上回っており、他の部門をカバーしている。	
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・全体的に横ばい状態が続いている。	
コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・前半の売上は暑さのためか良くなかったが、後半台風の後涼しくなり順調に推移し、トータルで前年比を確保できた。また製パンについては、新しい売上も入りカバーできているが、他のメーカーとのパイの奪い合状態でパイ自体は大きくなっていない。ただし、売出し等の条件で以前のように厳しいことは言われなくなったので、売上の数字は順調に伸びてきている。	

コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・9月は菓子類の新商品が出そろふ秋冬の入替え時期であるが、新商品も飛び抜けた売上はなく、例年に比べて多い販売量とはいえない。
衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・9月は涼しい日が3日続けば来客数が増加するが、暑い日もあったりと、まだ様子見の客が多い。チラシをうって、高額で良い商品が安くなっているときは、かなりの集客がある。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・夏商戦も終わり、期待したデジタル家電も不作であった。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・9月は同業他社も決算セールということで大々的に売出しをかけるときであるが、なかなか思うような成果につながらない。カーナビ、高額オーディオなどの添付品も少なく売上に苦戦した。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・決算月であるために、多少の新規客増はみられたが、依然として展示場等の来場者数の横ばい状態が続いている。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・ガソリン代の高騰に伴い 軽・大衆車への移行が見られ、大型車の売行きに影響がでている。
住関連専門店（広告企画担当）	お客様の様子	・購入に前向きではあるが、かなり慎重である。ずいぶん早い段階から、検討を始める客が非常に多くなってきた。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・一般の宴席は順調に予約が入っているが、婚礼については、他会場が増えたこともあり、厳しい状況となっている。
その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・前年比の売上では曜日差がありやや落ち込んでいるが、来客数も順調に伸びており、好調さが維持できている。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3か月前と比較して、来客数・売上共に減少気味で、やや低迷状態である。
観光型ホテル（経理総務担当）	お客様の様子	・宿泊客数は若干ではあるが、下降気味である。反面、宴会予約が上昇傾向にあり、特に11月～2月の婚礼問い合わせが活発化している。
都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・宿泊・レストランの来客数はほぼ前年並みであり、8月は良化したものの続かなかった。
都市型ホテル（総務担当）	単価の動き	・景気回復傾向にはあるものの、原油高による原価の高騰により、景気の上向き感はない。企業のモチベーションも上がっていないように感じられる。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ここ半年間はだいたい例年どおりで推移している。
タクシー運転手	単価の動き	・この3か月で、売上は前年比100%を維持しているが、乗客の声としては、景気の良いのは一部の会社だけという話が多く聞かれる。また、将来の年金に対する不安から、消費より貯蓄という声も耳にする。
タクシー運転手	販売量の動き	・基本的には3か月前1年前とあまり変化がなく、利用件数・客数も低いなりに安定している。飲酒運転の取り締まりが厳しくなり、少しは良くなるかと期待したが、繁華街の駐車場が夜間少し少なくなったくらいであまり変化がない。
タクシー運転手	お客様の様子	・売上はあまり伸びがなく、前年比98～100%といったところである。客の動きとしては、いろいろなイベント・行事に伴う家族の送迎が多い。また観光等についても、市内のルート観光バスを利用するなど、タクシーの利用度は減少している。
通信会社（総務担当）	お客様の様子	・10月1日の地上デジタル本放送の開始を控え、問い合わせ件数が増えてきている。ただし、新規契約は依然として伸び悩んでいる。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・IP電話のトラブル等の閉そく感とブロードバンドの販売量の伸び悩み・ユーザ投資の低迷により改善傾向はみられない。
テーマパーク（財務担当）	来客数の動き	・3連休の台風の影響により、入園者数は前年を割込んでいる。それ以外の日もほぼ前年並みとなり、上昇感は感じられない。
テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・9月の3連休の来園者が、台風の影響で大幅に落ち込んだ。今年は春からずっと日照不足など天候に悩まされており、今後の来園者も天候に左右され不安定となりそうだ。

	テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・中旬の台風の影響により三連休は打撃を受けたが、それ以外の日は例年並みの来客数となっており、全体的には変わらない結果となっている。
	競艇場(職員)	来客数の動き	・来客数・売上共に横ばいであった。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・昨年から連続で増客していたが、ややこの3か月前ぐらいから来客数の伸びが減少している。多少単価が上昇したのが原因ではないか。
	設計事務所(経営者)	単価の動き	・建物施設に投資をする民間企業の動きもまだまだ低迷しており、公共的物件についても非常に単価の小さい物件しか出ておらず、売上増にはなかなか結びつかない。
	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・展示場への来場者数、受注量は、若干持ち直し傾向は見受けられるが、坪当たり単価はあまり変化は無い。また一件当たりの受注坪数が減少がしており、受注金額は横ばいの状況が続いている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・西日本有数の大会社が多い商店街であるが、売上は今年に入って減少傾向が続いている。クレジット関係は、8月は極端に悪かったが、9月は回復している。月による増減はあるが、1月から眺めるとジリ貧と言わざるを得ない。世の中景気好調と言われるなかでのジリ貧はつらいものがある。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街への来街者数が減少し、全く人通りがない。今後どのようにしたら良いのか分からない。
	スーパー(財務担当)	競争相手の様子	・9月になって、当社の近隣に競合店が2店舗出店した影響を受け、売上が減少している。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数が前年比で742人から711人と31人の減。売上の前年比も前月95.7%から当月93.9%と更に前年割れを生じている。夏休みが終わり、財布のひもが急激に固くなったのではないか。
	コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・今月は地方商材を集めてキャンペーンを実施したが、低価格品しか売れていない。少し単価の高い商品は、手に取っても購入には至らない。
	家電量販店(店長)	来客数の動き	・1~2か月前に比べて、駐車場の客の車の台数が減少している。
	乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・商談に時間が長く掛かっている。また、比較検討のための買い回りが目立っている。そして、志向するのはできるだけ小さい車に向いている。
	乗用車販売店(統括)	販売量の動き	・販売量で見ると、3か月前より今月のほうが前年割れが大きい。普通車などが大幅に減少し、軽四輪車が若干伸びている。
	乗用車販売店(サービス担当)	来客数の動き	・店頭の来客数が前年に比べて少ない。当店の車を購入された客の変化は無いのだが、全くの新規の来客数が80%ぐらいである。
	自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・来客数は前年並みの推移であるが、主力のタイヤ、ナビゲーション等の動きが良くない。決算セールを行っているが、今一つ盛り上がっていない。
	その他専門店 [スポーツ] (店長)	来客数の動き	・最近、近隣店舗の閉店が相次いでいるため、人通りが激減している。
	都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・予約状況が前年と比較して良くない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月は稲刈りで忙しく、もともと動きが悪い月ではあるが、それを考慮しても若干の売上が減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・9月10月は年間を通じて観光客が多い月だが、今年あまり良い兆しがみえない。
	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・少額の修繕工事においても、価格の引き下げ要求や支払い条件がより厳しくなっている。
悪くなっている	一般小売店 [茶](経営者)	販売量の動き	・前年比割れは当たり前で、とにかく売れない。また、各産地から新規の販売先を求める問屋の訪問が増えてきている。業界全体が不況状態のようである。
	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・6月から来客数が極端に減少している。今月も秋のイベントの反応が良くない。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・今月は飲酒運転の事故が多発し、取り締まりも強化され、客が全く来ない。タクシーも暇になった。代行運転を頼めば良いのだが、代行料金と駐車料金を払うと飲食代より高つく。

		美容室（経営者）	来客数の動き	・例年だと8～9月は平均的に来客数の安定している月だが、今年は極端に来客数が減少している。
企業動向関連	良く なっている	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前月に続き過剰負荷であった職場の生産を外部委託したが、新製品の好調で、またしても負荷がかなり高くなってきている。
		農林水産業（従業者）	それ以外	・これまで長期間不漁であったイカ釣り漁が、例年以上の水揚げで、浜は活気づいた。また、巻き網船も地元船も何とか前年並みの漁があった。燃油高騰という悪条件があっても、漁に出て漁獲量が増加すれば、氷・漁箱その他の漁業資材の需要増大で市内が潤う。この好漁が持続してほしいものである。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注は引き続き好水準であり、工場はフル生産で対応している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・携帯関連は10月開始の番号ポータビリティ開始にあたり携帯各メーカー囲い込みに注力、受注も強気に入っている。自動車関連も欧米・アジア・国内とも相変わらず好調に推移し、現場製造ラインはほぼフル操業が続いている。受注減の様相は全くみられない。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・この半年間、仕事量は確実に増加している。ただし見積が1億円の工事であっても、受注するには7000万円～6500万円といったようなダンピングに近い価格になるなど、受注競争が非常に激しくなっていることが危惧される。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・地方版広告の基幹業種、車・ハウス・物販以外に、教育についての仕事が増えている。少子化対策のため、大学名を変更してリスタートを図るなど、広告関係の露出を増やし、ネームの浸透を図る方針がみとれる。既存の大学も負けじと広告宣伝費を増やしている。
変わらない		化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・生産量、出荷量共に先月と大きな変化はなく安定しており社内は全般に高稼働率である。物流費・原燃料費高騰の影響を受けながらも好景気の影響で、利益が出ている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・在庫は適正量を維持、もしくは少し減少している。生産・売上も計画どおりに推移している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は若干増えているものの、客からの値引き要請は強い。また、原材料価格の引き続き高騰に加え、原油高から来るオイル関係の高騰も痛い。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客からの受注は引き続き順調に推移している。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず在庫増が続いており、発注数が伸び悩んでいる。また材料単価の上昇が続いており、人件費増・経費増が経営を圧迫している。
		通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・法人向け通信サービスにおける既存高額商品の低廉商品への移行という傾向に変わりがなく、特筆するような受注販売がない。
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・為替の円安も寄与し、主力車種の輸出が好調であったり生産はフル操業を持続中である。原材料費の上昇分の製品価格への転嫁も進んでおり、収益面も改善している。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・製造業は堅調な業績を維持しているものの、小売等の販売業に勢いが無い。大体の業種において、売上高は良くて前年並みといった状態である。
やや悪くなっている		食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・製品をつくるまでにかかる原料等のラインのコスト、特に人件費・固定費の見直しを取引先から迫られ、なかなか厳しい状況である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・昨年10月より続いていた高い生産量に陰りがみえ、8月9月と計画量割れの状態にある。製造現場は一部派遣社員の退職等があり残業体制ではあるが労働負担は軽くなっている。新規の大型案件の引き合いもほとんどない。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・国内の市場環境の悪化に伴い、自社製品の売上が引き続き減少している。

		通信業（支社長）	受注量や販売量の動き	・光電話の需要も伸び悩みで、売上は下降傾向である。
	悪くなっている	建設業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・物件の数は悪くはないのだが、受注に繋がる物件は減少している。受注を重視するのか利益を重視するのかの判断ができずに今に至っている。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（支社長）	求人数の動き	・メーカーの求人意欲がおう盛である。
		求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・新卒については数的な不足を訴える企業が増えている。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数の前年比での増加傾向が続いているが、依然として派遣求人の増加によるところが大きい。一方、新規求職者が前年比で11.2%と増加しており、在職者の求職活動が影響している。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・これまで1人の社員が複数部門を掛け持ちしていたが、専門特化し1部門に専念させる。そのため空いたポジションに増員をかけたという企業が幾つかあった。これまでの守りから攻めに転じている。
	変わらない	人材派遣会社（支社長）	それ以外	・事務所拡張や市内中心部に移転する取引客が多い。
		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・引き続き企業の正社員雇用の意欲が活発である。特に採用背景が人員の退職補充ではなく、事業の拡大による採用意欲が高い。
		人材派遣会社（担当者）	それ以外	・求職者・求人者共に変わらない。求職者も特に増えているような様子はなく、求人数に対しての求職者数がマッチングしているような印象がある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・景気の良い企業と景気に乗れない企業の格差がかなり目立ってきていて、全体として景気が良い悪いと言えない状況になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・企業の広告出稿状況は、全く変化がないか、やや悪くなっている。これは、企業が3Kといわれる交通費・広告費・交際費をまだ締めた状態が続いているということである。
職業安定所（職員）		求職者数の動き	・新規求人数・月間有効求人数共に増加しているが、新規求職者数が、8か月連続で前年より増加している。特に在職者・無業者の申込みが増加しており、月間有効求職者数も8か月連続で増加している。そのため、求人倍率が上がらない。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人数は前年同月に比べ減少しているが、3か月前に比べると増加している。内訳をみると、パート求人に比べ正社員を対象とした常用求人の比率が高くなっている。	
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は、運輸業と医療福祉業で増加となった他はすべての業種で減少した。特に、前年比でみると派遣・請負求人での減少幅が大きかった。	
悪くなっている	-	-	-	